第63回運営推進会議

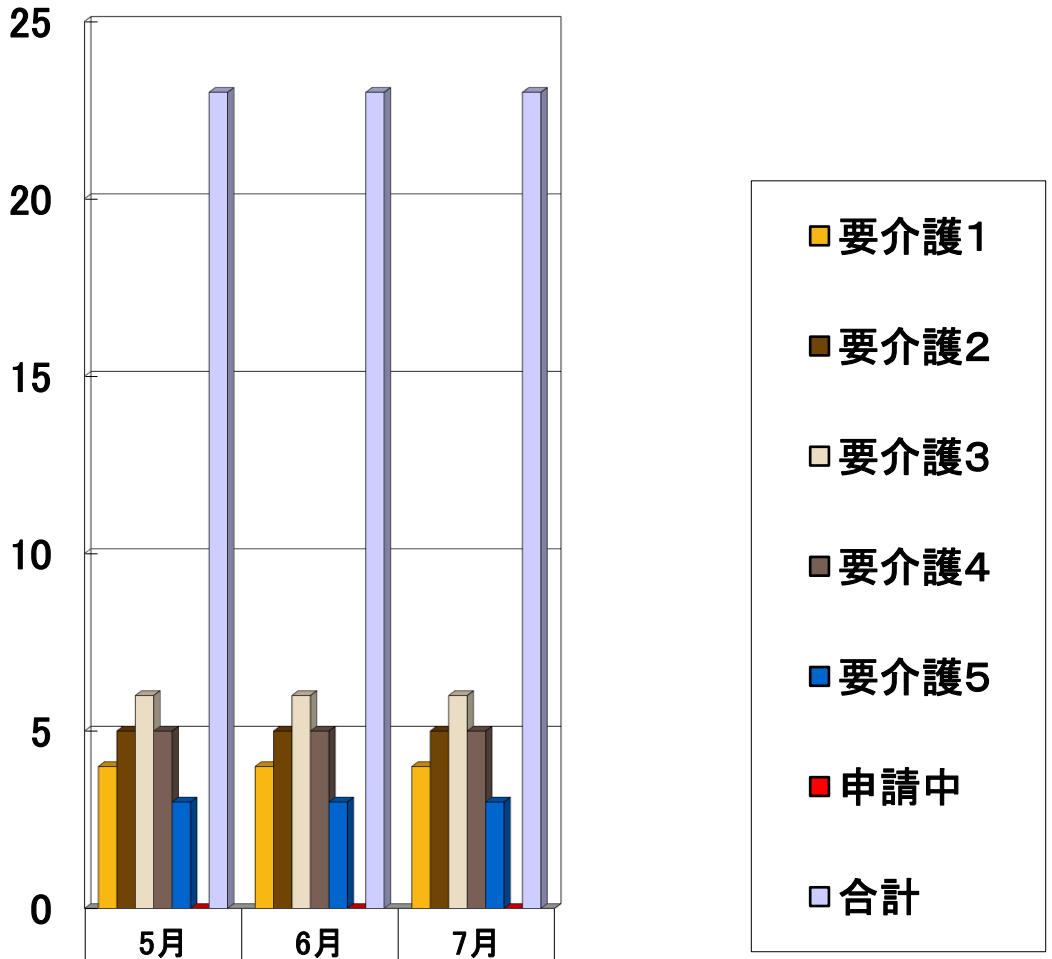
看護小規模多機能型居宅介護事業所
ケアステーションるぴなす

令和6年7月5日

第63回運営推進会議

- るぴなすご利用者現況報告
- 新規ご利用者
- 看取りの報告
- 活動報告
- 意見交換

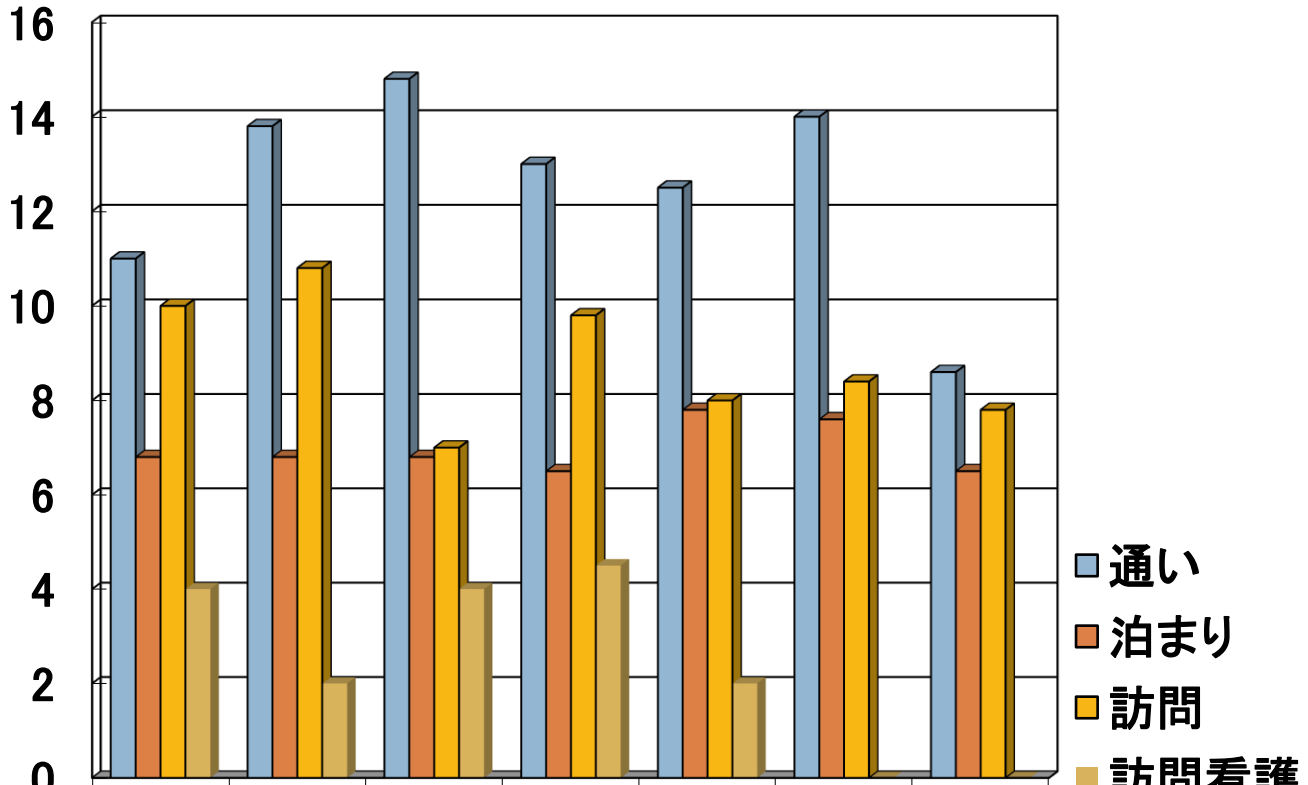
登録利用者数
令和6年5月～令和6年7月



	5月	6月	7月
要介護1	4	4	4
要介護2	5	5	5
要介護3	6	6	6
要介護4	5	5	5
要介護5	3	3	3
申請中	0	0	0
合計	23	23	23

7月
平均介護度　2.91

令和6年6月　曜日別延べ利用者数



	月	火	水	木	金	土	日
通い	11	13.8	14.8	13	12.5	14	8.6
泊まり	6.8	6.8	6.8	6.5	7.8	7.6	6.5
訪問	10	10.8	7	9.8	8	8.4	7.8
訪問看護	4	2	4	4.5	2	0	0

≪ 総合消防訓練・結果 ≫

＜日時＞　令和６年６月２０日（木）１４：００～１４：３０

＜場所＞　るぴなす屋内から駐車場へ避難

＜実施内容＞　・昼間想定避難訓練･･･初期消火，１１９番通報，避難誘導

＜想定時刻＞　１４：００

＜参加者＞　・看護小規模多機能　利用者８名・介護職員８名・事務所２名

・居宅支援事業所１名　・訪問看護１名

・高志二丁目自治会２名　・ニッタン１名

＜実施計画＞　火災発生。火災報知機が鳴り、自動で通報，応答。

初期消火，避難誘導、全員屋外へ避難。水消火器を使い、消火訓練。

反省会。

流れ	内容	役割分担
①　火災発生	給食室より出火。訪問看護事務所の火災報知機のベルを鳴らす。	中村
	暫くしてベルの音を止める。	ニッタン
①　初期消火	事務室の火災受信機で出火場所を確認し、消火器を持ち出火場所へ駆けつけ、消火器を構え20秒数える。	銅谷
①　消防署へ通報	火災通報装置から自動で通報。火災通報専用電話機が鳴ったら、応答する。	吉井
①　避難誘導	「火事だ！」と火災を知らせ、全員を車寄せへ避難誘導する。避難後の見守り。	全員 地域の方
	逃げ遅れや、けが人はいないか人数確認し管理者へ報告する。	銅谷
①　消火訓練	無事に避難、集合した後、水消火器(2本)を使用し、消火訓練。	ニッタン 出れる職員 希望する利用者様
①　集合	自治会長よりお話をいただく。 （解散）	全員
⑦火災通報装置の説明	ニッタンさんより、火災通報装置の説明をして頂く。	ニッタン 出れる職員
①　反省会	リビングで反省会	全員

＜感想・反省＞

・非常ベルの音量がとても大きく驚いた。事前に説明していたが、居室から出て来る利用者様もいた。職員の避難指示、誘導の声も聞き取りづらくなると思うので、叫ぶくらいの声出しが必要。

・以前、浴室で入浴介助をしていた時、非常ベルの音に気付かなかった事を思い出した。

・建物外からは、中の非常ベルの音に気付かない為、外部へ火事を知らせたり、助けを求める行動も必要。

・給食室は非常ベルの音が聞こえにくいので、災害が発生した時は給食室にも知らせて欲しい。（給食職員より）

・避難誘導は、皆が声を掛け合いながら指示・確認の連携が上手く図れていたと思う。

・水消火器の訓練に利用者様が積極的に参加して下さって良かった。

・避難経路（居室・廊下）の障害物について、日頃から整理整頓が必要。

・今回は利用者様の人数が少なく、また職員の人数も多かったので比較的余裕をもって行動できたが、利用者様が大人数になると上手く動けるか不安。

・車いす（るぴなす）がいつもの場所に置かれておらず探してしまった。（利用者様の居室にあった）

高志二丁目除草作業

栗の木公園に
新しいベンチ

認知症初期集中支援チーム介入～

看護小規模多機能
ケアステーションるぴなすへ

症例紹介

「おれんじサポート」～認知症初期集中支援チーム～

2016年（平成28年）1月～　認知症疾患医療センター　2ヶ所でスタート

2018年（平成30年）～　　全市展開　5チーム稼働

◆複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立支援のサポートを行うチーム

支援チーム員構成
〇常勤医師2名
〇社会福祉士2名
〇精神保健福祉士1名
〇介護福祉士1名
〇認知症看護認定看護師1名
〇看護師1名
〇理学療法士1名
〇作業療法士1名
〇言語聴覚士1名
〇コーディネーター1名

◆支援対象者の定義

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人または認知症の人で次のいずれかの基準に該当する者
〇医療サービス、介護サービスを受けていない者、または中断しているもので以下のいずれかに該当
・認知症疾患の臨床診断を受けていない者
・継続的な医療サービスを受けていない者
・適切な介護保険サービスに結びついていない者
・診断されたが介護サービスが中断された者
〇医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著な為、対応に苦慮している者

◆180日間で・・・
信頼関係の構築　支援導入初期における「アセスメント」
課題解決に向けた目標と時期を見定め　PDCA（Plan-Do-check-Action）

◆課題　認知症初期➜「年のせい」適切な予防的ケアに繋がりにくい
記憶障害ある事認めたくない➡家族や周囲も受診をためらう
早期段階➜介護認定非該当に
サービス利用の拒否、仕方ない、もう少し様子見よう➜「認知症の空白期間」

正しい理解と普及　➡　関り、支援　➡　望む暮らしの継続へ

第６３回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所　ケアステーションるぴなす

開催日時：令和6年7月5日(金)　18：00～
出席者：高志2丁目自治会長・岩田様，民生委員・大嶋様
　　地域包括支援センター山潟・小石様，法人代表・斎藤先生，法人総務・物江
　　看護小規模管理者・吉井，計画作成担当者・中村

１　はじめに
・コロナは今でも出ている。回復に時間がかかる。マスクを外す大勢での飲み会等は要注意。
・看護小規模多機能は24時間365日関わっている柔軟性のあるサービスで、いつまでも地域の中で暮らせる仕組みであり、2か月に1回の会議で地域に開かれた場所となっていますので、議論、提案をお願いします。
・自己紹介

２、利用状況報告
・登録25名可能なうち23名。介護度の人数変わりなし。
・通い15名可能なうち8～15名と、満員の日もある。泊まり9名可能なうち、6～8名。緊急の受け入れの為に1名分は空けておきたい。訪問7～11名。暮らしに合わせたサービスを提供している。

３、看取りの報告
・2014年から斎藤内科ｸﾘﾆｯｸ外来へ通われていた。心不全が悪化。一人暮らしだったが、長女様がお世話しに来られ、るぴなすに泊まられる日もあり最後の時間を過ごされた。入院すると病院はまだ面会が難しい現状がある。

４、新規利用の紹介
・高齢の夫と二人暮し。自宅で過ごす事を希望され、自宅で健康観察や入浴支援を受けている。介護者であるご主人が介護できない時にご本人が泊まり利用できように登録される。

５、活動報告
〇梅ジュース作り…梅のヘタ取りを一緒に行う。作った瓶を置いて皆で出来具合を見ている。
〇ビワの木…中庭のビワが生り、一緒に収穫。そのまま食べたり、ジャムやデザートにして味わった。
〇学生ボランティア…新潟医療福祉カレッジ1年生が4～6人グループ各2回、4グループ来て下さる。1回目は交流。2回目は考えた内容で交流。手作りカルタ，ペットボトルボーリングなど。

〇総合消防訓練…日中、厨房からの出火を想定し、玄関外へ避難。自治会の方の協力を得る。避難後、水消火器にて消火訓練。繰り返し訓練していく必要がある。非常ベルは、屋内では大きな音で人の声も声が聴こえない程だが外には聞こえない。外へ知らせる方法，協力を得る方法はないか。屋内でも厨房や浴室へは聴こえないので声かけが必要となる。

〇洪水想定訓練…洪水の場合、どの時点でどのような行動に移すか確認した。能登半島地震の時に避難してみてわかった事は、避難は大変で利用者様にとってはすぐに横に慣れない状況でとても負担である。全員が避難する事は困難。レベル2の時点で、自宅に送れる方は連絡をとって送った方がより安全。避難するには、避難場所で受ける人員，送る人員，残る人員が必要。エレベーターが使えない中、4階まで行くのはとても難しく、地域の方に協力頂かないと難しい。

＜意見・情報交換＞

・行政はどう考えているのだろうか。地域の人も高齢では4階まで助けられない。避難所へ行くまでも危ないかも知れない。

・垂直避難が良いが、課題である。

・施設を見回ると、居室の物が落ちたり壁に亀裂が入った。

・高志中等教育学校には100人近く避難したうようだった。テレビ等で「逃げて！」と凄かった。

・地域の要支援者は本人が届け出している。役員で声掛けの振り分けをしているがその時どうするか。

・一人暮らしの利用者様に声をかけ一緒に避難したが帰りたがられていたので、そういう方は避難所へ行くより自宅の2階が良いと思った。考えて行かないといけない。

・一人暮らしで2階に上げてもらった方もいた。
・高志2丁目では10月に訓練がある。ＡＥＤ，段ボールベッド，水消火器等、同じパターン、参加者も同じなので、違う事ができないかと思っている。
活動報告の続き
〇日頃の様子…たたみ物，髭剃り，お花、日頃できる事を行って頂き、できる事を奪わないように見守っている。
〇高志二丁目除草作業…大勢の力で行っている。栗の木公園のベンチが新しくなった。以前から要望しており、堤防の方にも要望出している。堤防の花壇は皆さんで手入れされており、座ってお喋りされている方もいる。

６、事例紹介
・認知症初期集中支援チーム介入の事例

＜意見交換＞
・地域包括支援ｾﾝﾀｰへは、暴言，飲酒，家の事，かかりつけ医がいない等で相談があり、認知症初期集中支援チームへお願いし関係性ができるまで何度も行って頃合いを見て自然に勧めて下さり、やっと受診、介護保険申請ができた。粘り強く関わって下さった。関係性を作るのが難しい。ご本人がそうしようと思わなければ受け入れない。信頼関係作りの積み重ね、つなげて行く事が大切。
・みどり病院は検査してもらえる。初期集中支援チームにつながっている。地域の方で心配な方がいれば地域包括支援ｾﾝﾀｰに窓口となって頂き、関わりが途絶えないようにできると良い。
・認知症の家族の理解具合。声のかけ方でご本人の気分が変わったりする。認知症の理解がまだ進んでいない。被害妄想は、身近な人が対象になってしまい家族は辛い。積極的な検査、専門職の関わり・連携が大事。

7、連絡・その他
・るぴなす祭りは9/14(土)午後に決まりました。自治会協賛。提案いただければと思います。
・8/18自治会組長会議とお茶の間さわやかトークがあります。クリニック待合室使用。
・救急隊キットは既往歴のある方へ民生委員が回って渡している。

どうぞ今後ともご支援ご協力をお願いします。

ケアステーションるぴなす　スタッフ一同